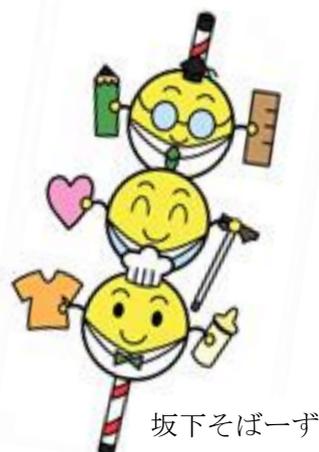


市町村名	中津川市	学校名	岐阜県立坂下高等学校			
校長名	小栗 英幸	対象学年	全校	人数	226名	
活動名	地域と共に地域と育つ	時間数		時間	継続年数	9年
題材	1 自然環境（山野・河川・動物・植物・その他） [ ] 2 歴史（出来事・史跡・先人・その他） [ ] 3 文化（芸能・芸術・民話・風習・その他） [ ] ④ 地場産業（農業・水産業・伝統工芸・その他） [ そばの種まき及び「そば粉クッキー」レシピ開発 ] ⑤ 絆を深め、よりよりふるさとをつくる活動 [ 地域行事でのボランティア、敬老のお祝品「健康棒」作成、 坂下駅トイレ掃除 ] ⑥ その他（地域の異年齢層との交流） [ 小学生・保育園児・未就園児・高齢者との交流 ]					
複数年継続するための工夫改善	地元の様々な団体と密に連携を取り、綿密な計画を立てるとともに、地域・本校生徒の両サイドからの事後アンケートを検証し、次年度の改善につなげている。					
<p>1 ねらい</p> <p>地域行事等のボランティア活動、また本校主催の地域貢献活動を通し、豊かな人間性と実社会で生きるコミュニケーション力を培い、地域社会で求められる人材の育成に努める。</p> <p>2 活動の概要</p> <p>(1) そばの種まき及び「そばからすみ」、「そば粉クッキー」の商品化</p> <p>平成21年度、坂下の地場産業である「そば」についての研究をする過程で、実際にそばを育て、収穫したそばを使った商品開発に取り組み、その商品は「坂下高校考案そばからすみ」として地元の道の駅で販売された。それ以来、毎年8月中旬にボランティアの生徒を募り、地元でそばの種まきを行っている。12月には、収穫したそばを使って、地域の方々と「そばうち体験」も実施している。</p> <p>今年度は専門高校生地域連携推進事業の取組の一環として、そば粉を利用した「そば粉クッキー」のレシピを研究し、坂下観光協会協力の下、近隣の道の駅等4カ所で販売を行っている。また「中山道中津川ふるさとじまん祭」でも販売をおこなった。</p> <p>平成28年度に、学科の特徴も盛り込んだ本校のキャラクター「坂下そばーず」を作成し、様々な行事の際にPRに活用している。</p>						



坂下そばーず

## (2) 地域行事でのボランティア活動

地域に貢献するボランティア活動を、年間20件ほど行っているが、以下に代表的なものを挙げた。

### ① 椈の湖還暦マラソンボランティア

平成20年より、毎年4月に行われるマラソン大会にて、受付・コース案内・ゴールテープ等のお手伝いをしている。今年度も全国より約220名のランナーが参加し大盛況の大会となったが、その大会の成功を陰で支えている。また同日開催されている「椈の湖さくらまつり」では、本校茶道部の生徒が野点茶会に参加し、還暦マラソンに参加された方々にも、お茶とお菓子でおもてなしをしている。

### ② 花馬祭り神輿参加

岐阜県重要無形文化財である坂下の「花馬祭り」において、女神輿の担ぎ手として参加した。地元の若者の減少により、年々担ぎ手が少なくなっており、本校ボランティア参加は地域からも期待されている。

## (3) 敬老の日米寿お祝いグッズ「健康棒88(ぱちぱち)セット」の作成と贈呈

平成22年より中津川市の依頼で、市内の米寿を迎えられる方へのお祝品として、広告の廃紙とペットボトルキャップを再利用した「健康棒」を全校生徒で作成し、贈呈している。その贈呈数は年々増加しており、今年度は中津川市在住で米寿を迎えられた534名の方々に、健康棒・説明書・鯛のメッセージカードをセットにした「健康棒88(ぱちぱち)セット」を贈呈した。



## (4) 坂下駅トイレ掃除ボランティア

平成23年に坂下駅のトイレが新しく設置されたのを機に、自分たちも利用するトイレ掃除を継続的に行おうということで、毎週火曜日に本校生徒たちがトイレ掃除を行っている。全校生徒がクラスや部活動で輪番制で行うボランティア活動である。

## (5) 地域の異年齢層との交流

坂下小学校や保育園児、あるいは坂下地区の未就園児親子と、本校生徒が既習の内容を生かして交流を行う場を年に数回設けている。例えば福祉科の生徒が小学6年生の児童を迎え、高齢者体験の授業を行ったり、生活文化科の生徒が小学5年生の児童にミシンの使い方を指導するなどの活動を行っている。未就園児親子には生活文化科の「フード」「ファッション」「保育」の3コースに分かれ、それぞれの分野の特長を生かし、幼児食を提供したり、手作り布おもちゃを作成したり、それを使って幼児と実際に遊んだりすることにより、学習内容の実践の場としている。

夏休みには本校会場に「ふれあい茶道教室」が開催され、茶道部の生徒を中心として、地域の小中学生に茶道のお点前を教えている。

また、子どもだけではなく、地域のお年寄りとの交流も継続して行っている。毎月1回行われる地域の高齢者の「ふれあいサロン」に本校福祉科生徒が出向き、健康体操やカルタ、ゲームなどを通して交流を図っている。

今年度は「咲明日（さかした）ステーション交流会 ～地域と繋ぐ 異世代間交流～」と銘打ち、住みやすい町づくりのために、未就園児親子と高齢者の架け橋となる場を設けた。地場産業である「そば」をテーマにした手作り絵本を使ったり、手作りそばクッキーを振る舞い、交流を行った。また音楽療法士を招き、本校オリジナルの「そばの歌」を用いた健康体操も楽しんでいただいた。

### 3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子

前項(1)～(4)の活動に関しては、地域住民からもたいへん感謝していただき、それらの行事・活動において、坂下高校がなくてはならない存在として認識していただくようになった。また、(5)の活動についても、小学校・幼稚園・未就園児の保護者、また地域の高齢者の方々から高い評価をいただき、今後もぜひ続けてほしいという期待を持っていただけている。

身だしなみを整え、適切なマナーで地域で活躍する姿が増えるにつれ、学校評議員の方々や地域の方々の本校生徒への評価も高くなっている。

### 4 活動による児童生徒の変容（伸長・成長等）

本校では、入学時より「自信がない」「達成感や成功体験が少ない」という生徒が多い。しかし、地域に出てその活動を認められることにより、少しずつ自信をつけていく様子が見られる。また、日頃あまり接することのない異世代との交流を通して、コミュニケーションの大切さに気づいたり、自ら考えてイニシアティブを取ることの難しさや充実感を実感しているようである。自分たちが日頃から学んでいる専門性を活かし、地域の異世代の方々に関わる活動を重ねるたびに、それぞれの生徒が新しい気づきを得ていることが、生徒の感想からもよくわかる。